

# 栃木県北部平五郎山～1781m ピーク

小沼 充範

■山行年月日:2022年3月29～30日  
■メンバー:小沼 充範  
■コースタイム:3月29日:林道入口14:50～16:10 テント場 3月30日:テント場8:10～平五郎山 10:10～1781mピーク 12:00～平五郎山 13:20～テント場 14:40～林道入口 16:10

平五郎山は栃木県北部の川俣温泉の北側に位置する山である。桜枝岐と川俣温泉を結ぶ引馬峠は、平五郎山を經由し楡ノ木沢右岸尾根へ下りていたようである。ピークハントもそうだが峠道の痕跡を探りたいと考え計画を立てた。

3月29日。川治ダム周辺の山々は雪が無く平五郎山に雪があるのか不安になるが、川俣湖の北側に見える山々は真白であり一安心する。川俣温泉手前にある楡ノ木沢右岸林道入口14時50分、出発。スキーを持ってきたが、林道に雪がないので車中に置いていく。しかし、今年は降雪が多く、林道上部はたっぷり雪があり、スキーを置いてきたことを後悔する。林道の九十九折の箇所はショートカットする。標高1150m付近の平坦地となり、引馬峠から川俣温泉へ下りた茅葺職人は、この辺りで萱を採取していたのだろうか。引馬峠は明治時代まで使用されていたようである。

林道が北上し西側へカーブする手前から東側の尾根に上がり、緩斜面を目指

す。カラマツ林の中を進むと、正面に1374mへ突き上げる沢が現れ、沢の左岸のテラスにテントを張る。沢は流れが出ており、雪を溶かして水を作る必要がないので助かる。雪で冷やしたプレモルで喉を潤し、角瓶のホットを飲みつつ星空を仰ぎ見た。

3月30日。必要な荷物だけを持ち8時10分、出発。1512mピークから南へ延びる尾根を登る。今朝は冷え込んだため雪が硬くしまっている。九十九折の古い林道をショートカットし、林道終点からカラマツ林の斜面を登って行く。9時10分、1512mピークに着き、所々にマーキングが見られる。尾根を登ると標高1630m付近で台地状の地形となり、ブナ林が唯一この場所だけしか見られない場所である。南に日光連山を眺めることができる。

針葉樹の平坦地を進むと、10時10分、平五郎山の頂上であり、木にプレートが付けられている。山頂は木に覆われ展望がきかないものの、木々の間から那須連峰、男鹿山塊を望むことができる。引馬峠へ延びる尾根をたどると、北側に真白な田代山、針葉樹で黒々とした台倉高山を眺めることができる。針葉樹の尾根の雪のない箇所には道が見られ、峠道の痕跡と思われる。

1725mピーク近くになると、雪がぬかるんでおり、ワカンを付けていても歩き

にくい。尾根上は大きな針葉樹が多い。1781mピークは岩の露出する急な斜面である。岩が凍っているため針葉樹の生える北側の雪面をトラバースする。雪がやわらかく、落とし穴に何度もはまって苦勞する箇所であった。12時、1781mピーク西側に到着する。引馬峠まで行きたかったが、雪がしまっておらず時間がかかりそうなので、ここから往路を戻ることにする。

13時20分、平五郎山を通過し、14時40分、テント場に到着する。テント等を撤収し、15時15分出発。カラマツ林から夕陽に染まる女峰山を眺めながら林道を歩き、16時10分林道入口に到着する。

雪質の条件が悪く引馬峠まで行けなかったものの、尾根上に峠道の痕跡を見つけることができた。近くには平家の落人の集落があり、平五郎山の「平」は平家に由来するものなのだろうか。



平五郎山の頂上

